

日本消化器外科学会雑誌編集後記

猛暑の毎日である。7月の東京の平均気温はフィリピン、マニラより高く、東京は熱帯となっているとニュースで報じていた。気温（℃）で聞くより、妙に納得する。

さて、連日の熱帯夜にロンドンからは心地よい風が吹いてくる。日本人選手たちの健闘である。これまで決勝にすら行けなかった団体競技で多くのメダルを獲得した。メンバーの多くが海外のクラブに所属し、経験を積み、海外チームを恐れなくなったことが大きいようである。決勝、準決勝で惜しくも敗れたチームもあるが、精一杯努力した結果を受け入れた選手の笑顔には感動した。

さて、日本国内では相も変わらず政治、原発、税金、領土、防衛、経済の問題で先行きが不透明である。領土問題は、他国の政治状況とも関連するが、日本政治の混乱を映し出しているのは間違いない。さらに、先日のニュースで、野田総理が、原発がなくなったときの影響を調べるようにとの指示を出したと報じていた。ドイツのメルケル首相が福島第一原子力発電所事故の直後に原発廃止宣言をしたのとは大きな違いである。また、フランスのサルコジ前大統領がこの原発事故直後に来日し、日本政府に協力を申し出るとともに、フランスの企業宣伝を巧みに演出した。日本国内の問題も、国際社会のさまざまな思惑の中で動かされていることを理解しなくてはならない。

最後に、日本消化器外科学会雑誌であるが、2011年度定時社員総会で投稿数が減少したこと、また採択率が30%以下となったことが報告された。雑誌のonline化、評議員選出のための新業績基準、英文誌投稿への投稿増加などの影響が考えられる。投稿数の推移を見守るとともに、採択率低下の原因も検討すべきであろう。先日の編集委員会では、邦文誌の最高峰を維持していくことで再合意され、今後も編集方針が変わることはないことが確認された。しかし、今後のonline化、国際化の波の中で、消化器外科学会雑誌がどのような立場をとっていくのか、今一度、考えることも必要であろう。20年後、30年後の次世代の消化器外科医が誇りを持てる消化器外科学会雑誌を目指したいと編集委員の一人として思っている。

(山本 雅一)

2012年9月1日